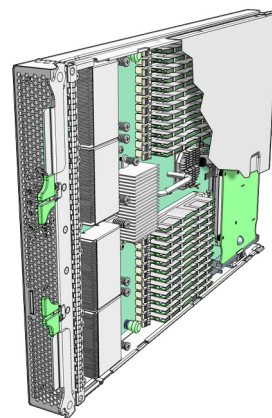


Sun Blade™ X6450 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステム インストールガイド



Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-5630-10
2008 年 7 月、改訂 A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

この配布物には、サードパーティによる情報が含まれることがあります。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Sun™ ONE Studio、Sun Blade X6450 Server Module、Sun StorageTek™ RAID Manager ソフトウェア、および Sun の会社ロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Intel® は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel® Xeon® は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel Inside® は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. 概要 1

Windows Server 2003 のインストールについて 1

Sun Installation Assistant (SIA) 3

ローカルまたはリモートインストール 3

ドングルケーブルの接続 5

Tools and Drivers CD 6

▼ Tools and Drivers CD のコピーをダウンロードする 6

サポートされている Windows オペレーティングシステム 7

ディスクレスサーバーについて 7

2. Sun Installation Assistant の使用 9

Sun Installation Assistant (SIA) について 9

機能と利点 10

SIA の使用を開始する方法 11

3.	大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクの作成	13
	ドライバフロッピーディスクの作成	13
	▼ Windows システムを使用したドライバフロッピーディスクの作成	14
	▼ Linux または Solaris システムを使用したドライバフロッピーディスクの作成	22
4.	リモートアクセスの構成	25
	リモートシステムの要件	26
	リモートコンソールアプリケーションの起動	26
	▼ リモートコンソールアプリケーションを起動する	27
	キーボード、マウス、およびストレージデバイスのリダイレクト	28
	▼ ストレージデバイスをリダイレクトする	28
5.	Windows Server 2003 のインストール	31
	インストール要件	31
	オペレーティングシステムのインストール	32
6.	重要なシステム固有のドライバのアップデート	39
	システム固有ドライバのアップデート	40
	オプションコンポーネントのインストール	44
7.	RIS イメージへのプラットフォームドライバの組み込み	47
	必要なドライバの確認	47
	RIS イメージへのドライバの追加	48
	▼ RIS イメージにドライバを追加する	48
	索引	51

はじめに

本書『Sun Blade X6450 サーバーモジュールの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』では、Windows Server 2003 オペレーティングシステムを Sun Blade X6450 サーバーモジュールにインストールする方法を説明します。

関連ドキュメント

Sun Blade X6450 サーバーモジュールのドキュメントセットの説明は、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6450>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun のすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	dir を使用してすべてのファイルを表示します。
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	> ipconfig Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、管理者権限が必要です。 ファイルを削除するには、del <ファイル名> と入力します。
AaBbCc123	ダイアログボックスのタイトル、ダイアログボックス内のテキスト、オプション、メニュー項目、およびボタン。	1. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Blade X6450 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド』、部品番号 820-3537-10

概要

この章では、Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムを Sun Blade X6450 サーバーモジュールにインストールするときに必要なプロセスの概要、および必要なファイルのダウンロード手順やサーバーへのドングルケーブルの接続手順を説明します。

この章には次の節があります。

- 「Windows Server 2003 のインストールについて」 (1 ページ)
- 「Sun Installation Assistant (SIA)」 (3 ページ)
- 「ローカルまたはリモートインストール」 (3 ページ)
- 「ドングルケーブルの接続」 (5 ページ)
- 「Tools and Drivers CD」 (6 ページ)
- 「サポートされている Windows オペレーティングシステム」 (7 ページ)
- 「ディスクレスサーバーについて」 (7 ページ)

Windows Server 2003 のインストールについて

Windows Server 2003 オペレーティングシステムをサーバーにインストールするには、3 つのコンポーネントを入手してサーバーにインストールする必要があります。

これらのコンポーネントは、次のとおりです。

- Windows Server 2003 メディアイメージ。これは CD に収録されているか、ISO イメージとすることができます。

ISO イメージを使用する場合は、リモートによるインストール方法を使用する必要があります。「ローカルまたはリモートインストール」 (3 ページ) および第 4 章を参照してください。

- Tools and Drivers CD または Tools and Drivers CD の ISO イメージ。
「Tools and Drivers CD」(6 ページ) を参照してください。
- 大容量記憶装置コントローラドライバ。第 3 章 を参照してください。
大容量記憶装置コントローラドライバは、RAID Expansion Module (REM) または PCIe ExpressModule を装備したシステムにのみ必要です。

注 – REM および PCIe ExpressModule はオプションです。

Windows の場合、フロッピーディスクを介して大容量記憶装置コントローラドライバを取得する必要があります。Windows のインストールプログラムでは、フロッピーディスクドライブ A からのみ、大容量記憶装置コントローラドライバを読み込むことができます。大容量記憶装置ドライバの取得に関しては、CD や DVD、または USB フラッシュドライブなど、他のデバイスはサポートされていません。

これらのコンポーネントをアSEMBルした後で、次の手順を実行します。

- リモートシステムからインストールする場合、第 4 章 の説明に従ってリモートアクセスを構成します。
- 第 5 章 の説明に従って、オペレーティングシステムをインストールします。
- 第 6 章 の説明に従って、サーバー固有のドライバをインストールします。



注意 – Windows 2003 オペレーティングシステムを起動ディスクからインストールすると、オペレーティングシステムなど、すべてのデータが削除されます。手順を進める前に、必要なデータをすべてバックアップしてください。

注 – 大容量記憶装置コントローラドライバは、REM または PCIe ExpressModule を装備したシステムにのみ必要です。システムに REM または PCIe ExpressModule が装備されていない場合は、大容量記憶装置コントローラドライバに関する説明をすべて無視してください。

Sun Installation Assistant (SIA)

Sun Installation Assistant (SIA) は、サポートされているバージョンの Windows オペレーティングシステムをサーバーにインストールする際に役に立つフロントエンドアプリケーションです。SIA は、オペレーティングシステムに付属している標準インストールユーティリティと手順を補足するもので、それに代わるものではありません。SIA の詳細は、[第 2 章](#)および『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux の Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』を参照してください。

ローカルまたはリモートインストール

Sun Blade X6450 サーバーモジュールからインストールを実行するか、または別の場所にあるコンピュータからリモートでインストールを実行できます。

注 – Preboot Execution Environment (PXE) サーバーを使用して Windows Server 2003 をインストールする場合は、[第 7 章](#)を参照してください。

- **ローカル:** ローカルインストールでは、必要なものはすべて、Windows 2003 オペレーティングシステムをインストールする Sun Blade X6450 サーバーモジュールにあります。

ローカルインストールでは、ドングルケーブルをサーバーモジュールの前面に接続する必要があります。ドングルケーブルと USB デバイスの接続方法については、「[ドングルケーブルの接続](#)」(5 ページ)を参照してください。

- **リモート:** リモートインストールでは、Windows 2003 オペレーティングシステムをインストールする Sun Blade X6450 サーバーモジュールは別の場所にあります。
 - インストールを行うユーザーは、インストールを完了するために必要なものがすべて揃っている他のコンピュータで作業を行います。
 - この場合、ローカルマシンを使用して Sun Blade X6450 サーバーモジュールの Embedded Lights Out Manager (ELOM) にログインし、リモート KVMs セッションを構成します。

KVMs セッションにより、ローカルマシン (ユーザーが使用しているコンピュータ) のリソースをリモートマシン (Sun Blade X6450 サーバーモジュール) で使用できるようになります。これにより、Sun Blade X6450 サーバーモジュールを操作する場合と同様にインストールを完了できます。

リモートインストールについては、次のドキュメントを参照してください。

- KVMS セッションを構成する手順については、第 4 章を参照してください。
- 詳しくは、『Sun Blade X6450 Server Module Embedded Lights Out Manager Administration Guide (Sun Blade X6450 サーバーモジュール Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)』を参照してください。

表 1-1 は、インストールタイプごとの要件を示しています。

表 1-1 インストール要件

項目	ローカル	リモート
Windows Server 2003 のインストールメディア	CD が必要	ISO ファイルまたは CD
Sun Blade X6450 Tools and Drivers CD または同等のダウンロードファイル	CD が必要	ISO ファイルまたは CD
キーボード、モニタ、マウス	dongル/USB ハブに接続	ローカルコンピュータに接続
dongルケーブル	ローカルにのみ必須	不要
USB ハブ	dongルケーブルの USB コネクタに接続	不要
CD/DVD ドライブ	USB CD/DVD ドライブを USB ハブに接続	CD/DVD ドライブをローカルコンピュータに接続 次の場合は不要: <ul style="list-style-type: none"> • Windows 2003 インストールメディアが ISO ファイルに収録されている場合 • Tools and Drivers ファイルが ISO ファイルに収録されている場合
<p>注 - フロッピーディスクとフロッピーディスクドライブは、REM または PCIe ExpressModule を装備したシステムに大容量記憶装置コントローラドライバをインストールするために必要です。これらは、REM または PCIe ExpressModule を装備していないシステムでは不要です。</p>		
フロッピーディスク。REM または PCIe ExpressModule のみに必要	REM または PCIe ExpressModule のみに必要	REM または PCIe ExpressModule のみに必要
フロッピーディスクドライブ REM または PCIe ExpressModule のみに必要	USB フロッピーディスクドライブを dongルケーブルの USB コネクタに直接接続	フロッピーディスクドライブをローカルコンピュータに接続
<p>注 - フロッピーディスクドライブが Windows Server 2003 でサポートされている必要があります。</p>		
<p>注 - フロッピーディスクドライブは、 dongルケーブルのいずれかの USB コネクタに直接接続する必要があります。ハブに接続しないでください。インストールが失敗する可能性があります。ハブをその他の USB コネクタに接続し、キーボードやマウスなど、追加のデバイスを接続できます。</p>		

ドングルケーブルの接続

ローカルインストールを選択した場合は、ドングルケーブルをサーバーモジュールに直接接続する必要があります。

ドングルケーブルの接続方法を図 1-1 に示します。

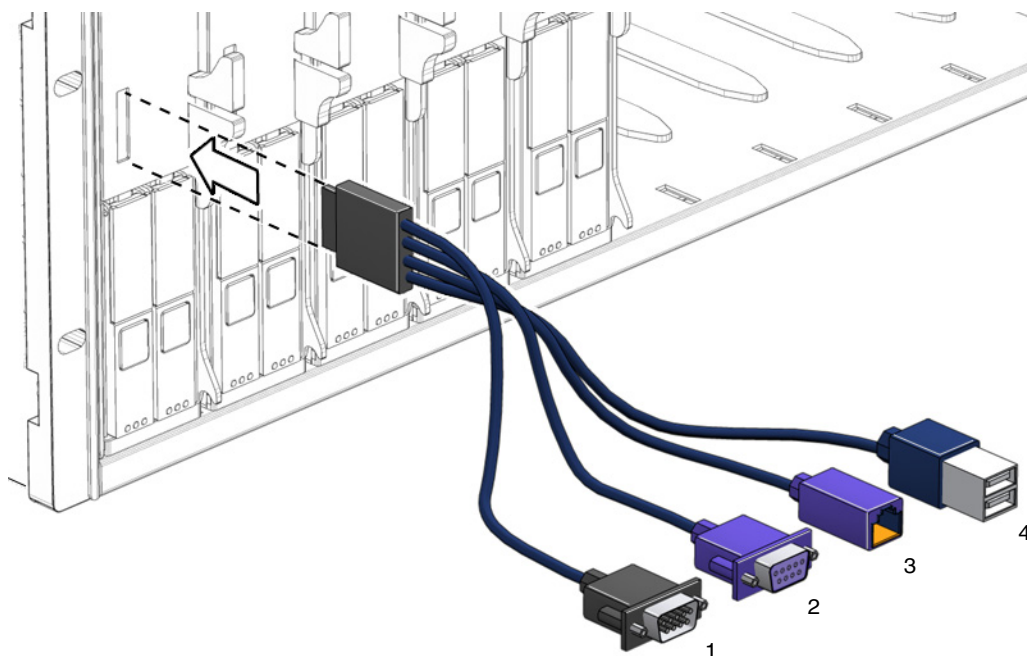
1. USB フロッピーディスクドライブをドングルケーブルの USB ポートの 1 つに直接接続します。



注意 - USB フロッピーディスクドライブは、ドングルケーブルのいずれかの USB コネクタに直接接続する必要があります。ハブに接続しないでください。インストールが失敗する可能性があります。

2. USB ハブをその他の USB ポートに接続します。
3. キーボード、マウス、および CD ドライブを USB ハブに接続します。

図 1-1 ドングルケーブルの接続



各部の名称

- 1 DB9 シリアルコンソールからサーバーモジュール ILOM
注 - このコネクタは、3 コネクタドングルには存在しません。
 - 2 VGA ビデオコネクタ
 - 3 RJ-45 コネクタ
 - 3 コネクタドングルでは、このコネクタを ELOM へのシリアルアクセスに使用します。
 - 4 コネクタドングルでは、このコネクタは使用しません。
 - 4 デュアル USB コネクタ
-

Tools and Drivers CD

Sun Blade X6450 サーバーモジュールの Tools and Drivers CD のコピーを用意しておく必要があります。用意していない場合は、ISO ファイルをダウンロードし、このファイルを使用して Tools and Drivers CD を作成できます。

▼ Tools and Drivers CD のコピーをダウンロードする

1. ダウンロード用のディレクトリを作成します。
2. ドライバのダウンロードサイトに移動します。
Sun Blade X6450 サーバーモジュールの場合:
<http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp>
3. ユーザー名とパスワードを使用してログインします。
4. 選択したディレクトリに Tools and Drivers CD の ISO イメージをダウンロードします。
5. CD ユーティリティを使用して ISO ファイルを CD に書き込みます。
以上で Tools and Drivers CD のコピーが完了しました。

サポートされている Windows オペレーティングシステム

本書の発行時点で、Sun Blade X6450 サーバーモジュールは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2003、R2 SP2 以降、Standard Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、R2 SP2 以降、Enterprise Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、R2 SP2 Standard x64 Edition (64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、R2 SP2 Enterprise x64 Edition (64 ビット)

Sun Blade X6450 サーバーモジュールでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストは、次のサイトで確認できます。

<http://www.sun.com/servers/blades/x6450/os.jsp>

本書は Sun Blade X6450 サーバーモジュールを対象としています。インストールは、製品プラットフォームによって部分的に異なります。

ディスクレスサーバーについて

Sun Blade X6450 はディスクレスサーバーです。つまり、ローカルディスクが装備されていないため、オペレーティングシステムをローカルディスクにインストールすることはできません。

ただし、オペレーティングシステムをインストールできる複数の場所、および複数のインストール方法があります。サーバーモジュールの電源が入っているときにオペレーティングシステムを自動的にインストールする方法や、オペレーティングシステムをインストールする前にハードウェアやソフトウェアの構成が必要になる方法があります。

Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストールプログラムでは起動デバイスを選択できます。システムをネットワークで構成する方法によっては、このリストに表示されるデバイスが異なります。

ハードウェアを追加する必要がある構成の場合は、オペレーティングシステムをインストールする前にハードウェアを装着する必要があります。また、起動デバイスを BIOS で構成する必要がある場合もあります。

- プロセスの概要、および起動デバイスの選択のガイドラインについては、『*Sun Blade X6450 Installation Guide* (HerculesSun Blade X6450 設置ガイド)』を参照してください。
- ハードウェアの詳細は、ハードウェアに付属するドキュメントを参照してください。

Sun Installation Assistant の使用

この章では、Sun Installation Assistant (SIA) を使用してオペレーティングシステムをインストールするときのオプションについて説明します。SIA を使用して、Windows オペレーティングシステムをサーバーにインストールできます。

Sun Installation Assistant (SIA) について

Sun Installation Assistant (SIA) は、サポートされている Windows オペレーティングシステム (OS) のインストールを支援するツールです。SIA を使用すると、SIA を起動してプロンプトに従うだけで、OS、適切なドライバ、および追加のシステムソフトウェア (必要な場合) をインストールできます。

SIA によって、自動的に OS がインストールされるわけではありません。OS ベンダーのインストール手順には従う必要がありますが、システムハードウェアのインベントリや Sun でサポートされている最新デバイスドライバの検索とダウンロードは不要です。また、別途 ドライバ CD を作成する必要もありません。これらの作業は SIA が担当します。

機能と利点

SIA には、次のような機能と利点があります。

- サーバーに接続されているローカルドライブ (CD/DVD または USB フラッシュドライブ)、リモートリダイレクトネットワークドライブ (仮想 CDROM または ISO イメージ)、または PXE ネットワークブートからブート可能なメディア。
- プラットフォームハードウェアおよびインストールされているオプションカードの確認。
- オペレーティングシステムメディアおよびシステムで必要なサポートされているデバイスドライバの確認。

SIA にオペレーティングシステムソフトウェアが用意されているわけではありません。SIA のインストール時に、オペレーティングシステムソフトウェアを用意しておく必要があります。

- プラットフォームでサポートされているブート可能メディア (ハードディスク、コンパクトフラッシュ) へのオペレーティングシステムインストールの支援。
- Sun でサポートされている最新の OS レベルデバイスドライバ、およびシステムに必要なシステムソフトウェアのインストール (必要な場合)。
- サポートされているサーバー上のサーバー BIOS およびサービスプロセッサ (SP) ファームウェアをアップグレードするオプション。
- インストール中にエラーや予期しない条件が発生した場合に表示される、わかりやすいエラーメッセージ。
- 新規にインストールされたサーバーの c:\ にあるイベントログファイルを必要に応じて容易に使用可能。

SIA の使用を開始する方法

SIA の使用を開始するときは、次の説明を参照してください。

- サポートされている Sun サーバー プラットフォームの詳細なリストについては、次のサイトの SIA 情報ページを参照してください。

<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>

- Sun Installation Assistant CD は、x64 プロセッサアーキテクチャをサポートするほとんどの Sun サーバーに付属しています。また、次の Sun ダウンロードページから Sun Installation Assistant Download の最新 ISO CD イメージをダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/download/index.jsp>

SIA プログラムのアップデートは、SIA のインストール中に、SIA のリモートアップデートオプションを使用して簡単に取得できます。

- サーバーでの SIA の使用については、『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux の Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』(820-3557)を参照してください。これは、Sun ドキュメント Web サイトからダウンロードできます。

<http://docs.sun.com>

大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクの作成

この章では、Windows Server 2003 のインストールに使用する大容量記憶装置ドライバのメディアを準備する手順を説明します。この手順では、Tools and Drivers CD を使用して、第 5 章で使用する大容量フロッピーディスクを作成します。

システムにシャーシに REM や PCIe ExpressModule が取り付けられていない場合、大容量記憶装置ドライバは**不要**です。この章を読む必要はありません。

注 – Sun Installation Assistant を使用して Windows OS をインストールする場合、必要なすべてのドライバはインストール時に用意されています。SIA では、ローカルまたはリモート CD または DVD を使用して Windows OS をインストールできます。SIA の詳細は、『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux の Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』および <http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp> を参照してください。

ドライバフロッピーディスクの作成

フロッピーディスクを作成する前に、次のシステム構成や材料が利用できることを確認します。

- フロッピーディスクデバイスが接続されたシステム。これには、フロッピードライブ以外のデバイスへの追加の接続を確立するために、USB ハブが必要になる場合があります。詳細は、表 1-1 を参照してください。
- フロッピーディスク
- Tools and Drivers CD。

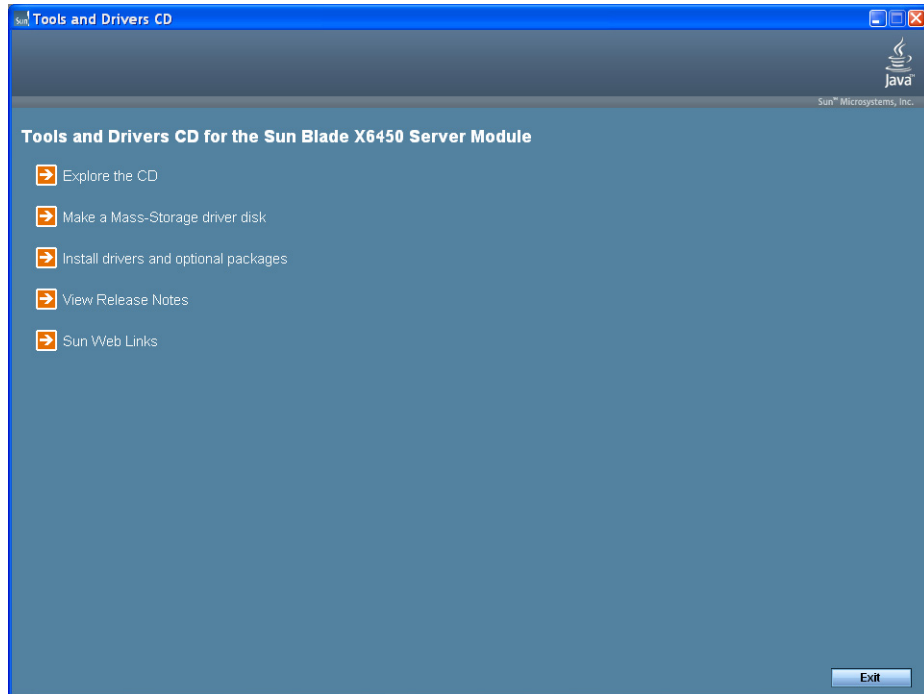
次のいずれかの手順を使用して、フロッピーディスクを作成します。

- [Windows システムを使用したドライバフロッピーディスクの作成](#)
- [Linux または Solaris システムを使用したドライバフロッピーディスクの作成](#)

▼ Windows システムを使用したドライバ フロッピーディスクの作成

1. 書き込み可能なフロッピーディスクをシステムのコピーディスクドライブに挿入します。
2. **Tools and Drivers CD** を CD ドライブに挿入します。
「Tools and Drivers CD」ウィンドウが表示されます。

図 3-1 「Tools and Drivers CD」ウィンドウ



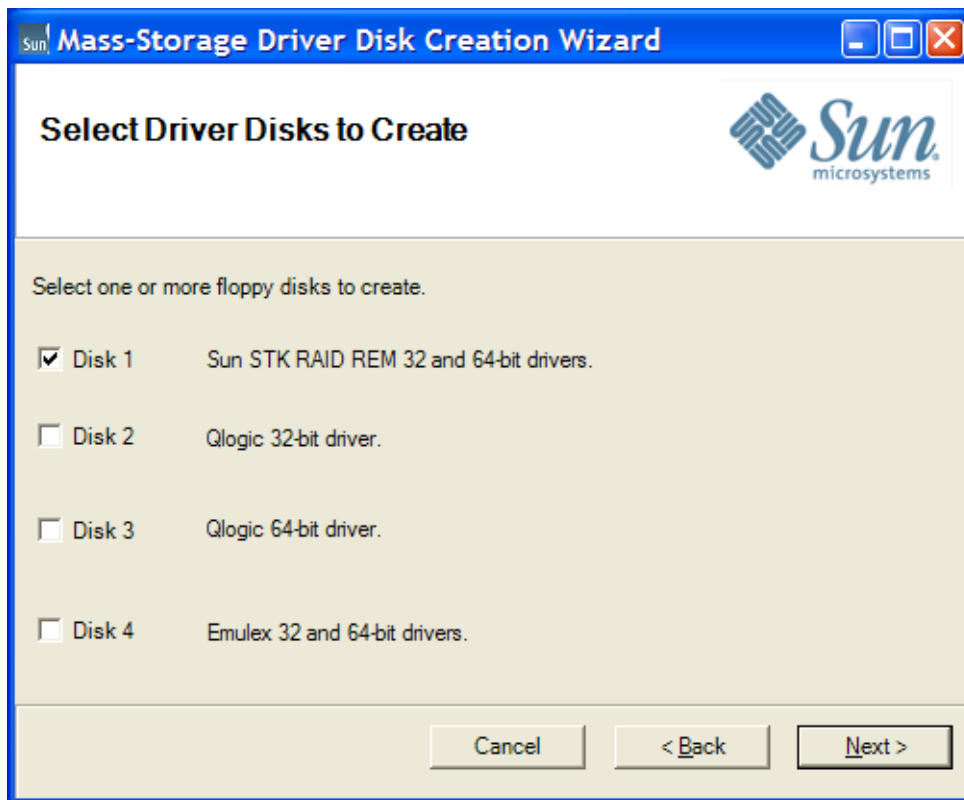
3. 「**Make a Mass Storage Drivers Disk (大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクの作成)**」メニューを選択します。
「Create Installation Floppy (インストールフロッピーの作成)」ウィザードが表示されます。

図 3-2 「Create Installation Floppy Wizard Welcome (インストールフロッピーの作成ウィザードへようこそ)」画面



4. 「Next (次へ)」 をクリックします。
作成するドライバフロッピーディスクの種類を選択を求めるダイアログボックスが表示されます。

図 3-3 「Select Type of Driver Diskette to Create (作成するドライバフロッピーディスクの種類を選択)」ダイアログ



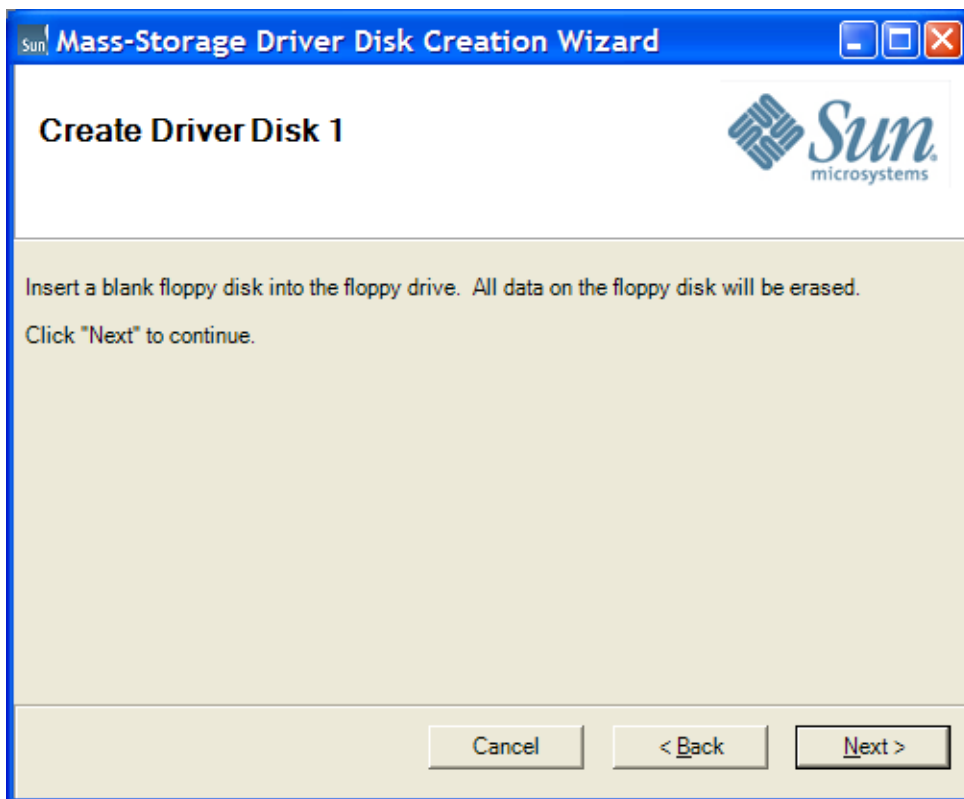
5. 作成するドライバフロッピーディスクの種類を選択します。この選択肢は、使用している REM または PCIe ExpressModule に一致する必要があります。
- Sun Blade RAID Expansion Module の場合は、Sun STK RAID REM 32 および 64 ビットドライバを選択します。
 - QLogic PCIe ExpressModule の場合は、32 ビット OS を使用するか、または 64 ビット OS を使用するかに応じて、QLogic 32 ビットドライバまたは QLogic 64 ビットドライバを選択します。
 - Emulex PCIe ExpressModule の場合は、Emulex 32 ビットドライバおよび 64 ビットドライバを選択します。

複数を選択した場合は、ウィザードの途中で追加のフロッピーディスクを挿入するように求められます。

注 – 次の例では、ウィザードで Sun Blade RAID Expansion Module のフロッピーディスクを作成しています。

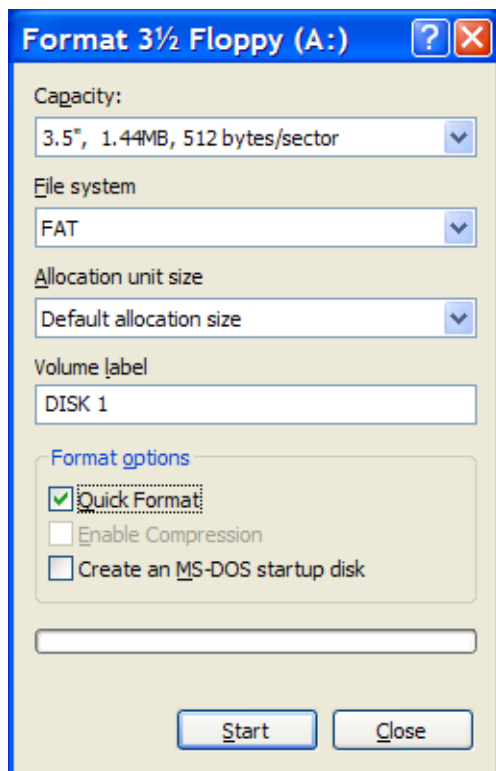
6. 選択を終えたら、「Next (次へ)」をクリックします。
フロッピーディスクを挿入するようにダイアログボックスに指示が表示されます。

図 3-4 空のフロッピーディスクの挿入ダイアログ



7. フロッピーディスクを挿入し、「Next (次へ)」をクリックします。
フロッピーディスクのフォーマットのダイアログボックスが表示されます。

図 3-5 フロッピーディスクのフォーマットのダイアログ

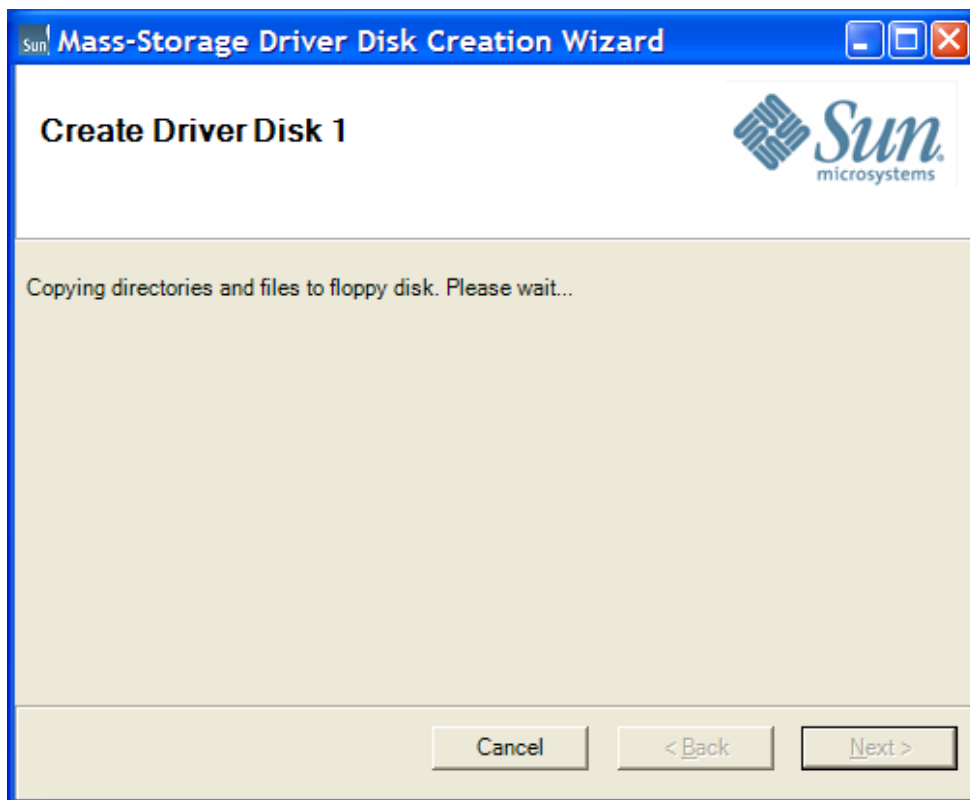


8. フロッピーディスクをフォーマットするための設定を指定し、「開始」をクリックします。
この手順では、「Quick Format (クイックフォーマット)」で問題ありません。

注 – 警告が表示される場合は、「OK」をクリックします。

9. ダイアログボックスに、ウィザードでドライバフロッピーディスクを作成していることが表示されます。

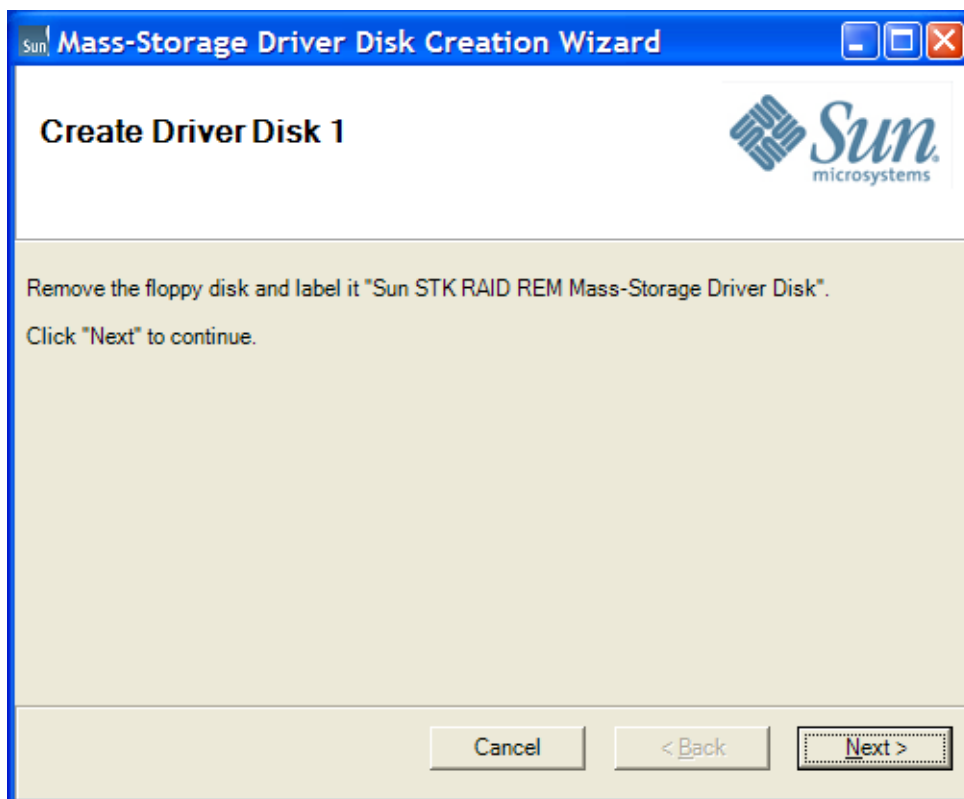
図 3-6 ドライバフロッピーディスクの作成



ウィザードでドライバフロッピーディスクの作成が完了すると、完了したことが通知され、ドライブから作成済みのドライバフロッピーディスクを取り出してラベルを付けるように求める別のダイアログが表示されます。

手順 5 で複数選択を行った場合は、ウィザードの途中で別のフロッピーディスクを挿入するように求められます。

図 3-7 フロッピーディスクの取り出しを求めるウィンドウ



10. フロッピーディスクをドライブから取り出して、「Next (次へ)」をクリックします。
ウィザードに、完了ウィンドウが表示されます。

図 3-8 ドライバフロッピーディスクの作成



11. 「Close (閉じる)」をクリックしてウィザードを閉じます。
大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクが作成されます。
12. [第 4 章](#)に進みます。

▼ Linux または Solaris システムを使用した ドライバフロッピーディスクの作成

注 – この手順では、~/windows/w2k3/packages/FloppyPack のファイルをフロッピーディスクにコピーします。

1. /tmp/files ディレクトリを作成します。
% **mkdir /tmp/files**
2. Tools and Drivers CD をシステムに挿入し、必要に応じて CD をマウントします。
3. 次の例に示すように、ツールとドライバの CD の FloppyPack ディレクトリに移動します。
% **cd /mnt/cdrom/windows/w2k3/packages/FloppyPack**
フォルダにはバージョン番号が含まれている可能性があります。
4. Tools and Drivers CD から /tmp/files ディレクトリにファイルをコピーします。
% **cp -r * /tmp/files**
5. files ディレクトリに移動します。
% **cd /tmp/files**
6. 書き込み可能なフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
7. フロッピーディスクをシステムにマウントします。
使用中のオペレーティングシステムに応じて、次の例を参照してください。
 - Solaris の場合
% **volcheck**
 - Linux の場合
% **mkdir /mnt/floppy**
% **mount /dev/fd0 /mnt/floppy**
8. files ディレクトリのファイルおよびフォルダをドライバフロッピーディスクにコピーします。
使用中の OS に応じて、次の例を参照してください。
 - Solaris の場合
% **cp -r * /floppy/floppy0/controller**
 - Linux の場合
% **cp -r * /mnt/floppy/controller**
ここで *controller* には、次を指定します。

- smirem.oem (REM)
- emulex.oem (Emulex PCIe ExpressModule)
- qllogic-i386.oem (QLogic PCIe ExpressModule を使用している 32 ビットオペレーティングシステム)
- qllogic-amd64.oem (QLogic PCIe ExpressModule を使用している 64 ビットオペレーティングシステム)

9. [第 4 章](#)に進みます。

リモートアクセスの構成

この章では、Windows Server 2003 オペレーティングシステムをリモートシステムから Sun Blade X6450 サーバーモジュールにインストールできる、KVM リモートアクセスセッションを構成する方法を説明します。

Sun Blade X6450 サーバーモジュールからインストールする場合は、[第 5 章](#)に直接進んでください。

このセクションの目的は次のとおりです。

- メディア (ソース) があるシステムから Sun Blade X6450 サーバーモジュールの ELOM にアクセスします。
- サーバーモジュールの ELOM とメディアがあるシステムとの間に、KVM 接続を構成します。
- サーバーモジュールの ELOM が次の項目を検出するように構成します。
 - Windows Server 2003 オペレーティングシステムの CD または ISO イメージの配布。
 - フロッピーディスクドライブ (大容量記憶装置ドライバをインストールする場合)。大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、Windows Server 2003 オペレーティングシステムでサポートされるフロッピーディスクドライブをリモートシステムに装着する必要があります。

この作業が完了すると、Sun Blade X6450 サーバーモジュールまたはリモートシステムから Windows Server 2003 をインストールする準備が整います。



注 – リモートアクセスを使用して Windows Server 2003 をインストールすると、インストールの所要時間が大幅に長くなります。インストールの所要時間は、ネットワーク接続とトラフィックによって異なります。

注 – コンポーネントを Sun Blade X6450 サーバーモジュールにローカルにインストールする場合は、コンポーネントの構成を行うこの章の該当部分を省略できます。

次に進む前に、CD/DVD ドライブとフロッピーディスクドライブがソースシステムに接続されていることを確認します。

リモートシステムの要件

リモート (またはソース) システムは JavaRConsole がインストールされ、次の要件を満たす必要があります。

- Solaris、Linux、または Windows オペレーティングシステムがインストールされている。
- Sun Blade X6450 シリーズの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークに、システムが接続されている。
- Java™ ランタイム環境 (JRE™) 6.0 以降がインストールされている。
- JavaRConsole システムで Solaris OS が動作している場合は、ボリューム管理が無効になっており、物理的に接続されたフロッピーディスクドライブまたは CD/DVD-ROM ドライブに JavaRConsole がアクセスできる。
- JavaRConsole システムで Windows Server を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にしている。
- JavaRConsole システムと ELOM サービスプロセッサが設定されている。

注 – 本書では、JavaRConsole ハードウェアのセットアップに関する詳細な手順は説明しません。詳細は『*Sun Blade X6450 Server Module Embedded Lights Out Manager Administration Guide* (Sun Blade X6250 サーバーモジュール Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)』を参照してください。

リモートコンソールアプリケーションの起動

下の手順で、ELOM の Web GUI からリモートコンソールアプリケーションを起動します。一連の問い合わせが表示される場合は、各問い合わせに対して「Run (実行)」を選択します。

注 – 各 ELOM システムには、デフォルトで DHCP が設定されています。IP アドレスが 5 秒以内に見つからない場合は、デフォルトで 192.168.1.2 が指定され、すぐに Web にアクセスできます。

▼ リモートコンソールアプリケーションを起動する

1. Web ブラウザを開きます。
2. アドレスバーに Sun Blade X6450 サーバーモジュールの ELOM の IP アドレスを入力します。
ログイン画面が表示されます。
3. デフォルトのユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名: **root**
パスワード: **changeme**
4. 「Log In (ログイン)」をクリックします。
「System Information (システム情報)」画面が表示されます。
「System Information (システム情報)」タブ、「System Monitoring (システム監視)」タブ、「Configuration (設定)」タブ、「User Management (ユーザー管理)」タブ、「Remote Control (リモートコントロール)」タブ、および「Maintenance (メンテナンス)」タブが表示されます。
5. 「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
6. 「Redirection (リダイレクト)」を選択します。
画面に「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンが表示されます。
7. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックします。
「hostname mismatch (ホスト名の不一致)」メッセージが表示されます。
8. 「Run (実行)」をクリックします。
他のセキュリティメッセージが表示されることがあります。
9. 状況に応じて「Run (実行)」、「OK」、または「Yes (はい)」をクリックします。

注 – Firefox および Mozilla Web ブラウザを使用するシステムでは、JRE のバージョンが 1.6 以降である必要があります。

Web ブラウザにより、埋め込みリモートコントロールアプリケーションが自動的にダウンロードされ、「Remote Console (リモートコンソール)」画面が表示されます。

「Remote Console (リモートコンソール)」画面が表示されない場合は、Web ブラウザのセキュリティコントロールによりブロックされている可能性があります。必要に応じてセキュリティのレベルを下げ、リモートコンソールが表示されるようにします。

キーボード、マウス、およびストレージデバイスのリダイレクト

リモートコンソールアプリケーションでは、次の種類のデバイスのリダイレクトがサポートされます。

- ビデオ表示 - サーバーのビデオ出力がローカルコンソール画面に自動的に表示されます。
- キーボードとマウスデバイス - 標準のキーボード、マウス、およびその他のポインティングデバイス。
 - キーボードのリダイレクト - デフォルトで有効です。
 - マウスのリダイレクト - 手動で有効にする必要があります。
- ストレージデバイス - CD/DVD ドライブ、フラッシュデバイス、DVD-ROM またはフロッピーディスクドライブ、ハードドライブ、または NFS。

▼ ストレージデバイスをリダイレクトする

次のデバイスへのリモートアクセスを有効にするには、下の手順に従います。

- Windows Server 2003 オペレーティングシステムリリースメディア。次のいずれかを使用します。
 - Windows Server 2003 オペレーティングシステムリリースメディアを含む CD ドライブ。
 - Windows Server 2003 オペレーティングシステムリリースメディアの ISO イメージ。
 - [第 3 章](#) で作成したフロッピーディスクを挿入したフロッピーディスクドライブ (サーバーモジュールに REM または PCIe ExpressModule が装着されている場合)。
1. 「[リモートコンソールアプリケーションの起動](#)」(26 ページ) の説明に従って、リモートコンソールアプリケーションを起動します。
「Remote Console (リモートコンソール)」画面が表示されます。
 2. ドロップダウンリストから「Storage (ストレージ)」を選択し、「Mount Device (デバイスをマウント)」をクリックします。
これによって、対応するローカルストレージデバイスがリモートサーバーに接続され、リモートサーバーに直接接続されたストレージデバイスと同じように扱えます。

3. ドロップダウンリストから CD ソースデバイスを選択します。
 - CD-ROM デバイスを選択するには、次の手順に従います。
 - a. 「Media Name (メディア名)」ドロップダウンリストから CD ドライブを選択します。
 - b. 「Select (選択)」をクリックします。
 - ISO ファイルを選択するには、次の手順に従います。
 - a. 「Source Device (ソースデバイス)」ドロップダウンリストから ISO ファイルを選択します。
 - b. 「Select (選択)」をクリックします。
ブラウザが表示されます。
 - c. Windows 2003 Server オペレーティングシステム CD の ISO ファイルイメージを参照します。

図 4-1 「Device Configuration (デバイス設定)」ウィンドウ

The screenshot shows a window titled "Device Configuration" with a blue title bar and a close button in the top right corner. The window contains three identical configuration sections, each labeled "Storage [1]", "Storage [2]", and "Storage [3]" respectively. Each section has the following fields: "Media name : Media type : Mount point" with a dropdown menu showing "[Choose Available Device]", an "Encryption" dropdown menu showing "None", and a "Select" button. To the right of the sections are "Submit" and "Cancel" buttons.

4. 「Floppy (フロッピー)」を選択します。

この手順は、REM または PCIe ExpressModule を装備した Sun Blade X6450 サーバモジュールに大容量記憶装置ドライバをインストールする場合のみ必要です。
5. 選択したら、「Submit (送信)」をクリックします。

以上でデバイスがマウントされ、Windows をインストールする準備が整っています。第 5 章 を参照してください。

Windows Server 2003 のインストール

この章では、Windows Server 2003 オペレーティングシステムを Sun Blade X6450 サーバーモジュールにインストールする方法について説明します。

インストール要件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、必要な条件を満たしていることを必ず確認してください。

すべてのインストール方法で、次の要件を確認してください。

- サーバーモジュールおよびサポートされているネットワークハードウェアの設置を終えている。

ガイドラインについては、『*Sun Blade X6450 Installation Guide (HerculesSun Blade X6450 設置ガイド)*』およびネットワークハードウェアのドキュメントを参照してください。

- 本書のここまでの章に記載されている手順をすべて実行している。
- USB デバイスを接続している。
- オペレーティングシステムのインストールについての個別の詳細情報については、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

インストールプロセス中に、オペレーティングシステムをインストールできる場所のリストがインストーラに表示され、いずれかを選択することが求められます。Sun Blade X6450 は、ディスクレスサーバーであるため、オペレーティングシステムをインストールする場所を事前に決定しておく必要があります。

注 – Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。この節では、Sun Blade X6450 サーバーモジュールに Windows Server 2003 をインストールする手順のみを説明しています。

その他、大容量記憶装置ドライバおよび Windows メディアを取得してインストールする各方法に固有の要件は、表 5-1 を参照してください。

表 5-1 各インストール方法の要件

方法	必要な操作またはアイテム
ローカル	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアと DVD-ROM ドライブが使用できる状態にあることを確認します。• 大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、USB フロッピーディスクデバイスを USB0 (最初の USB ポート) に接続します。• USB ハブを使用してフロッピーディスクドライブを接続しないでください。フロッピーディスクドライブは、ドングルケーブルのいずれかの USB コネクタに直接接続する必要があります。
リモート	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2003 インストールメディアをローカルシステムの CD または DVD-ROM ドライブに挿入するか、またはローカルハードドライブ上で Windows Server 2003 ISO ファイルにアクセスできることを確認します。• 大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、フロッピーディスクドライブをローカルシステムに接続し (必要な場合)、大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。

オペレーティングシステムのインストール

次の手順に従って、Microsoft Windows Server 2003 ソフトウェアをサーバーモジュールにインストールします。



注意 - Windows のインストールにより起動ディスクがフォーマットされ、すべてのデータが失われます。

1. 「インストール要件」(31 ページ) のすべての要件を満たしていることを確認します。
2. サーバーモジュールの電源を再投入します。
BIOS POST プロセスが開始されます。
3. BIOS POST 画面に「Press F8 for BBS POPUP (BBS ポップアップを表示するには F8 を押します)」というプロンプトが表示されたら、F8 を押します。
BIOS POST プロセスが完了すると、「Boot Device (起動デバイス)」メニューが表示されます。

図 5-1 「Boot Device (起動デバイス)」メニュー



4. 次のいずれかの方法を使用して、インストールを開始します。
 - CD からローカルまたはリモートでインストールする場合:
 - CD を対応する CD ドライブに挿入します。
 - リストの CD ドライブを選択します。
 - ISO イメージを使用してリモートインストールを実行している場合は、リストから ISO ファイルを選択します。

注 - 手順 5 で Enter キーを押したあと、次の操作をすばやく行ってください。手順を続行する前に、手順 6 と手順 7 を読んで作業内容を理解しておいてください。

5. Enter キーを押します。

6. 「Press any key to boot from CD (CD からブートするにはいずれかのキーを押します)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

Windows のセットアップが起動します。

注 - このプロンプトは 5 秒間だけ表示されるため、見逃されることがよくあります。このプロンプトを見逃すと、システムを再起動して手順 3 に戻る必要があります。

注 – インストール手順の間に、インストールプログラムにより、オペレーティングシステムをインストールするデバイスを選択するように求められ、起動デバイスのリストが表示されます。このリストには、ネットワーク上にあるアクセス可能なハードドライブが含まれています。正しい場所を選択します。

Windows Setup (Windows セットアップ) の初期に、画面下部に次のメッセージが表示されます。

Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver.
(サードパーティー製の SCSI または RAID ドライバをインストールする必要がある場合は、F6 を押してください)

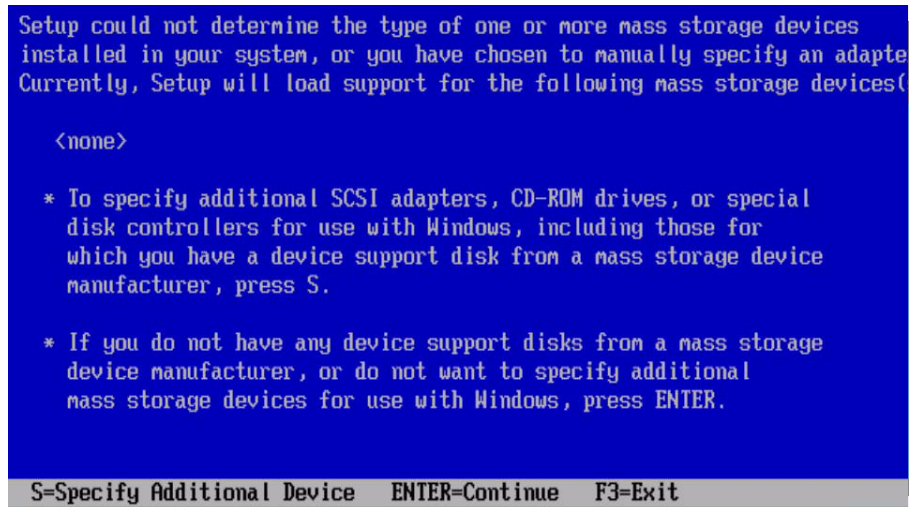
7. このメッセージに、次のいずれかの方法で応答します。

- 大容量記憶装置ドライバをインストールする必要がある場合は、F6 を押しします。この手順は REM または PCIe ExpressModule を装備したシステムでのみ必要です。
- 大容量記憶装置ドライバをインストールする必要がある場合は、何もする必要がありません。インストールが自動的に[手順 12](#)に進みます。

注 – このプロンプトは 5 秒間だけ表示されるため、見逃されることがよくあります。このプロンプトが表示されている間に F6 を押さないと、追加のドライバを指定する画面が表示されず、大容量記憶装置ドライバがインストールされずにインストールが進行します。この場合、大容量記憶装置ドライバをインストールするには、システムを再起動して[手順 3](#)に戻ります。

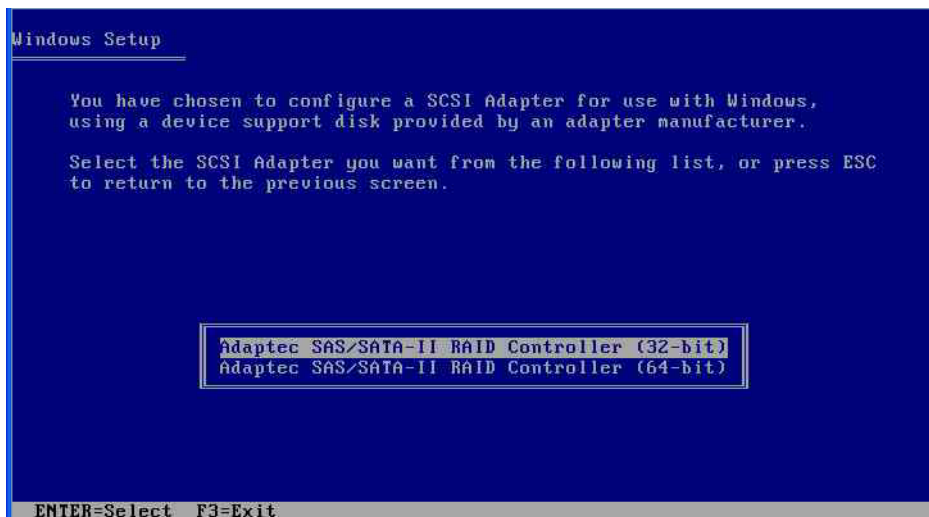
追加のデバイスを指定するには S キーを押すように指示する画面が表示されます。

図 5-2 追加デバイスの指定画面



8. 選択した大容量記憶装置ドライバのインストール方法に応じて、大容量記憶装置ドライバにアクセスできることを確認します。
 - ローカル: 大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクは、サーバーモジュールに接続されたドングルケーブルに接続されているフロッピーディスクドライブにあります。
 - リモート: 大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクは、ローカルマシンに接続されたフロッピーディスクドライブにあります。
9. **s** を押して、追加のデバイスを指定します。
使用可能なドライバが画面に一覧表示されます。

図 5-3 SCSI アダプタの選択画面

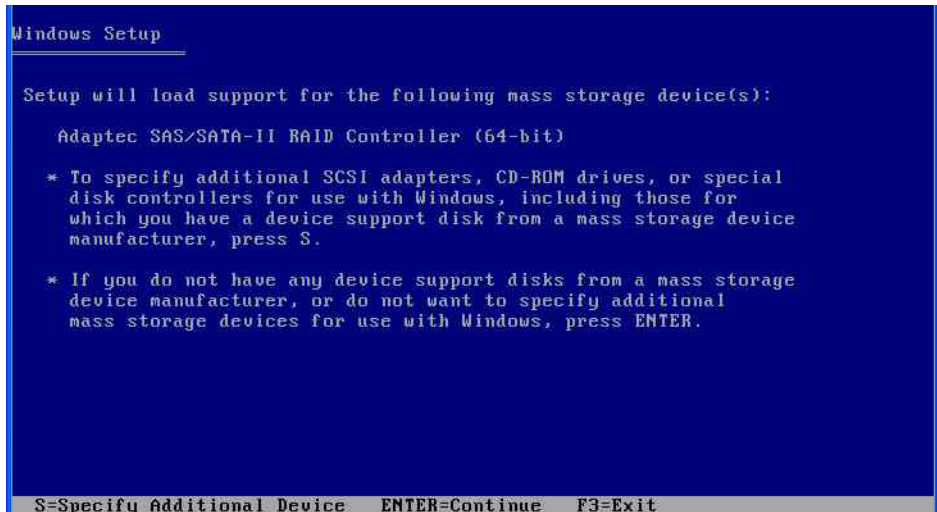


10. インストールする Windows のバージョン (32 ビット版または 64 ビット版の Windows Server 2003) に応じて、適切なバージョンのドライバを選択して、Enter キーを押します。

選択内容を確認し、追加のドライバを選択する画面が表示されます。

注 - 図 5-3 および図 5-4 に実際に表示される内容は、サーバーに装着されている REM や PCIe ExpressModule の種類に応じて異なります。

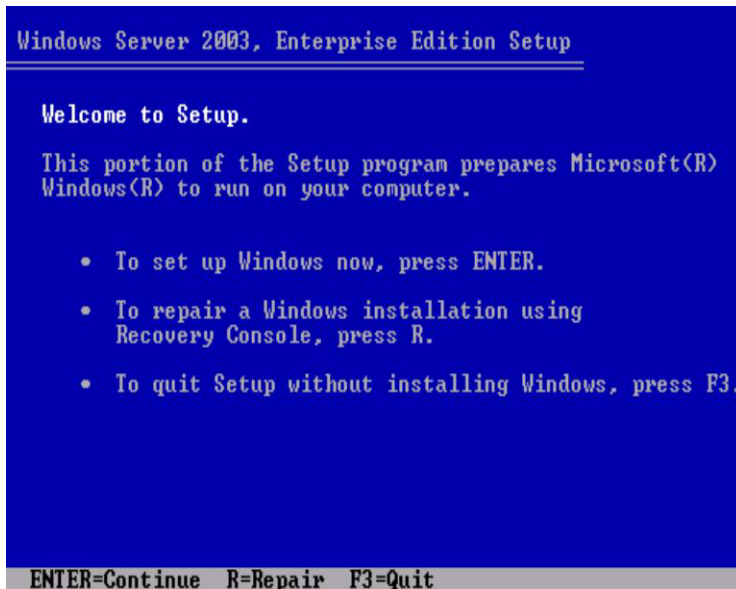
図 5-4 追加デバイスの指定画面



11.Enter キーを押して先へ進みます。

Windows セットアップの起動画面が表示されます。

図 5-5 Windows セットアップの起動画面



注 - **手順 7** で大容量記憶装置ドライバをインストールしていない場合は、途中の手順を省略してここへ進みます。

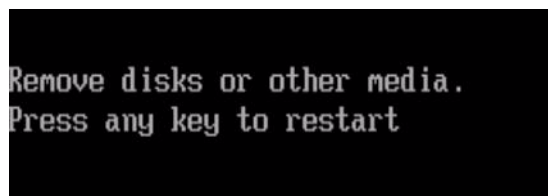
12. **Enter** キーを押して先へ進みます。

Windows セットアップが続行されます。

13. 画面上の指示に従って、**Windows Server 2003** のインストールを完了します。

インストール中に、システムがリブートされ、次のメッセージが表示されることがあります。

図 5-6 ディスクの取り出しメッセージ



このメッセージが表示された場合は、次の手順に従ってインストールを完了する必要があります。

- a. インストール方法に応じて、次のいずれかの手順を実行します。
 - ローカル: フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出します。
 - リモート: フロッピーディスクをローカルマシンのフロッピーディスクドライブから取り出します。
- b. いずれかのキーを押してシステムを再起動し、**Windows Server 2003** のインストールを完了します。

14. [第 6 章](#)に進みます。

重要なシステム固有のドライバのアップデート

この章では、インストール済みの Windows Server 2003 を Sun Blade X6450 サーバモジュールに固有のデバイスドライバソフトウェアでアップデートする方法について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- 「システム固有ドライバのアップデート」 (40 ページ)
- 「オプションコンポーネントのインストール」 (44 ページ)

この章は、次の準備がすでにできていることを前提としています。

- リモートでインストールする場合は、[第 4 章](#)の説明に従って KVMS を開き、起動している。
[第 4 章](#)で構成したリモートセッションが引き続き動作しており、サーバーに接続されている。
- [第 5 章](#)の説明に従って Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールしている。
- Tools and Drivers CD を用意している。
[「Tools and Drivers CD」 \(6 ページ\)](#) を参照してください。

システム固有ドライバのアップデート

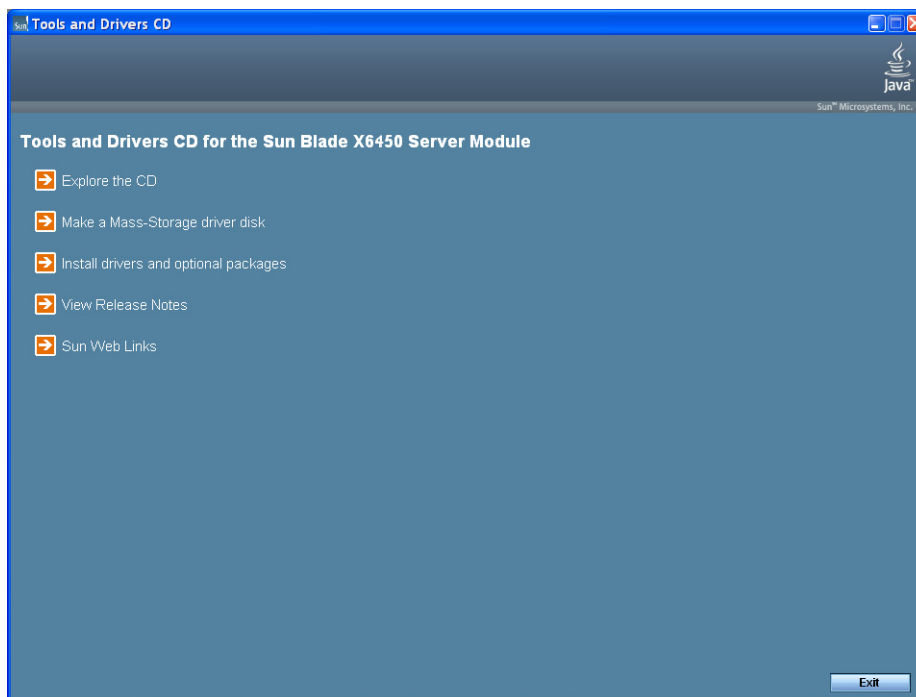
システム固有ドライバをアップデートするには、次の手順に従います。

1. Tools and Drivers CD を CD ドライブに挿入します。

サーバーモジュールに直接接続されているか、[第 4 章](#) の説明のようにサーバーモジュールにリモートで接続された CD ドライブに CD を挿入します。

「Tools and Drivers CD」ウィンドウが表示されます。

図 6-1 「Tools and Drivers CD」ウィンドウ

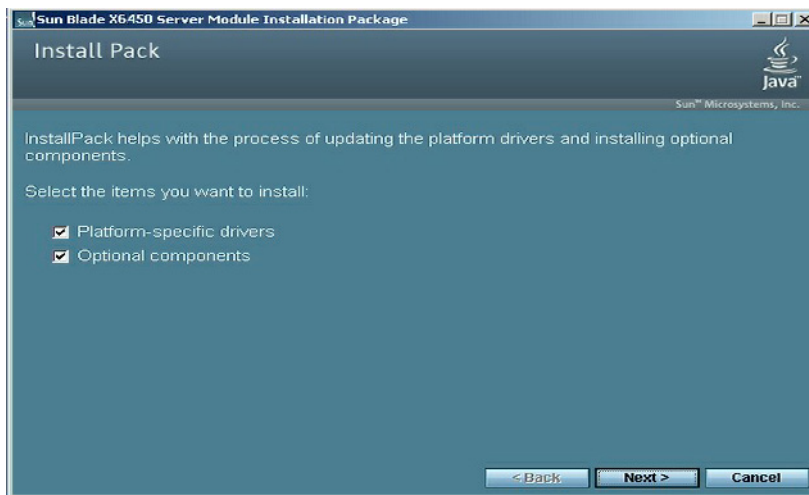


注 – [第 5 章](#) の説明に従ってオペレーティングシステムをインストールした後に Sun Blade X6450 サーバーモジュールがリブートすると、Windows オペレーティングシステムが起動します。リモートインストールを実行している場合、リモート KVMS セッションが開いたままで、機能している必要があります。

2. 「Install Drivers and Optional Packages (ドライバとオプションパッケージのインストール)」を選択します。

インストールプログラムでいくつかのファイルが展開され、Sun Blade インストールパッケージのダイアログボックスが表示されます。

図 6-2 Sun Blade インストールパッケージのダイアログボックス

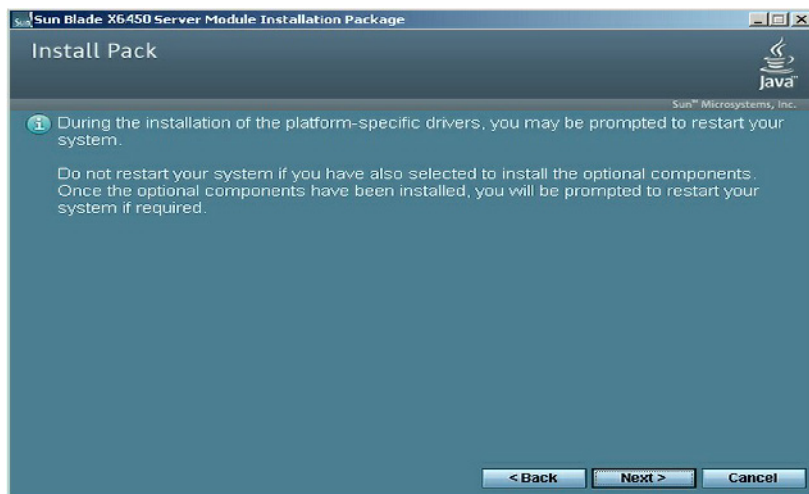


3. 「Next (次へ)」をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。これにより、オプションのコンポーネントと、プラットフォーム固有のドライバがインストールされます。

注 – 最新のドライバがインストールされるようにするには、「Platform-specific drivers (プラットフォーム固有のドライバ)」を選択してください。

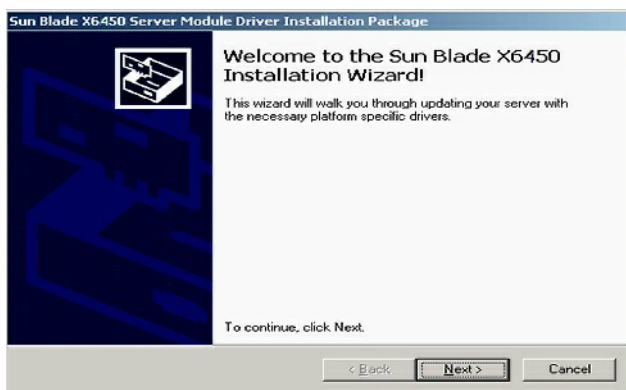
「Install Pack (インストールパック)」ダイアログボックスが表示されます。

図 6-3 Install Pack (インストールパック) ダイアログボックス



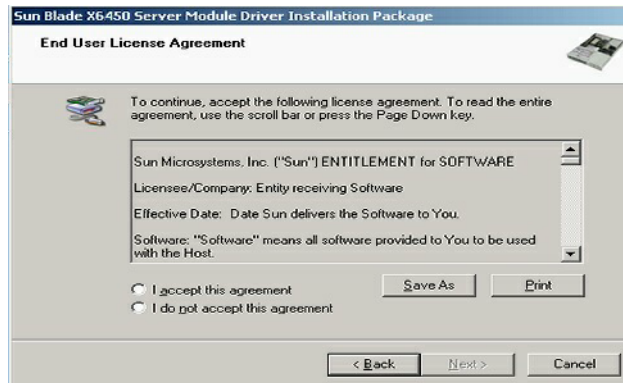
4. 情報を確認し、「Next (次へ)」をクリックします。
Sun Blade インストールウィザードが表示されます。

図 6-4 Sun Blade インストールウィザード



5. 「Next (次へ)」をクリックします。
「End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)」ダイアログボックスが表示されます。

図 6-5 End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)



6. 「I accept this agreement (同意する)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。インストールが続行され、「Finished Installing (インストール完了)」ダイアログボックスが表示されます。すべてのドライバのインストールが完了していることを確認します。エラーが発生した場合は、システムをリポートして InstallPack.exe アプリケーションを再実行してください。

図 6-6 インストール完了画面



7. 「Finish (完了)」をクリックします。「システム設定の変更」ダイアログボックスが表示されます。

図 6-7 システム設定変更画面



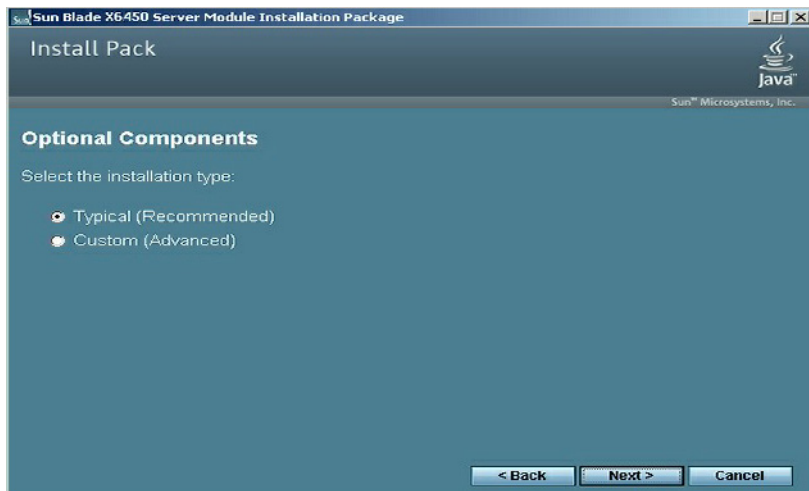
8. オプションのコンポーネントをインストールしている場合 (および手順 3 でデフォルト設定を受け入れた場合) は、「No (いいえ)」をクリックして「オプションコンポーネントのインストール」(44 ページ)に進みます。

オプションコンポーネントをインストールしない場合は、「Yes (はい)」をクリックしてコンピュータを再起動します。

オプションコンポーネントのインストール

オプションのコンポーネントをインストールする場合は、前の節の手順 3 で「Optional Components (オプションのコンポーネント)」を選択し、手順 8 で「No (いいえ)」を選択する必要があります。この操作を完了していると、「Optional Components (オプションのコンポーネント)」ダイアログボックスが表示されます。

図 6-8 オプションコンポーネントのダイアログボックス



1. **Next (次へ)** を選択します。または、推奨設定を変更する場合は、「**Custom (カスタム)**」を選択して「**Next (次へ)**」をクリックします。

ダイアログボックスの指示に従って、選択したオプションコンポーネントを順にインストールします。

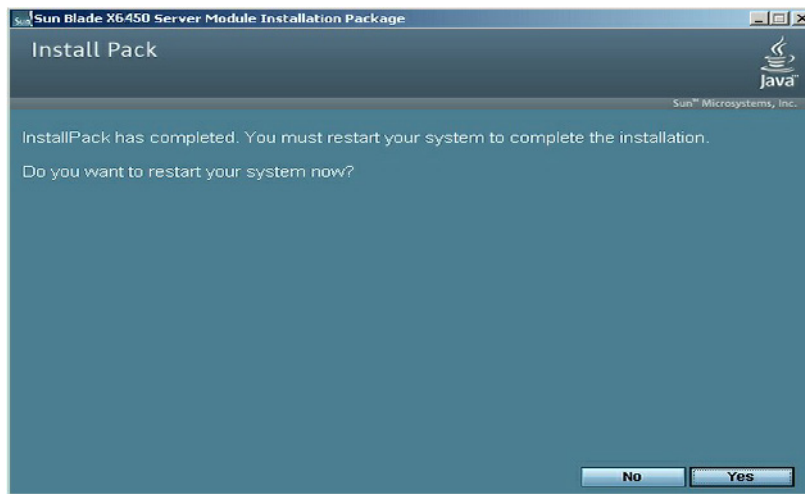
インストールしたコンポーネントに応じて、コンポーネントのデフォルトのインストール設定を受け入れるよう求めるプロンプトが表示されます。

2. すべてのシステムコンポーネントのデフォルトのインストール設定を受け入れます。

注 – 推奨設定を変更すると、一部のオプションコンポーネントでは、署名されていないドライバと一緒にインストールされます。そのような場合でも、システムは正常に動作します。署名されていないドライバがインストールされるたびにセキュリティの警告ダイアログボックスが表示されますが、「**Yes (はい)**」を選択してインストールを続行します。

選択したすべてのオプションコンポーネントがインストールされると、Sun Blade のセットアップ完了ダイアログボックスが表示されます。

図 6-9 Sun Blade のセットアップ完了ダイアログボックス



3. 「**Yes (はい)**」 をクリックしてインストールを完了します。

RIS イメージへのプラットフォーム ドライバの組み込み

この章は、Sun Blade X6450 サーバーモジュールのドライバパッケージをリモートインストールサービス (RIS) イメージに組み込む必要がある、上級のシステム管理者を対象としています。

この章は、RIS のチュートリアルではありません。サーバーモジュール固有のドライバを RIS イメージ内に組み込む方法を説明しています。

必要なドライバの確認

RIS イメージに組み込む必要がある Sun Blade X6450 サーバーモジュール固有のドライバを表 7-1 に示します。

表 7-1 RIS インストール用 Sun Blade X6450 サーバーモジュール固有のドライバ

デバイス	32 ビット版 Windows Server 2003 に必要	64 ビット版 Windows Server 2003 に必要
Aspeed AST1000/2000 グラフィックスアダプタ	はい	はい
Intel Pro/1000 EB ネットワーク (I/O アクセラレーション機能搭載)	はい	はい
Intel(R) 631xESB/6321ESB チップセット	はい	はい
QLogic, Emulex, LSI, または Adaptec	はい	はい
Infineon トラステッド・プラットフォーム・モジュール	はい	はい

RIS イメージへのドライバの追加

この例では、RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch は、ドライバが追加される、RIS サーバー上にあるイメージを指します。

- Language はインストールされているオペレーティングシステムの言語です (English など)
- Dir_name は RIS イメージがインストールされているディレクトリです。
- Arch は、32 ビットイメージでは i386、64 ビットイメージでは amd64 です。

ここでは、RIS イメージにドライバを組み込む方法の例を説明します。

▼ RIS イメージにドライバを追加する

1. RIS イメージの、RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダと同じ階層に、\$OEM\$ フォルダを作成します。
2. \$OEM\$ フォルダ内に、\$1\Sun\Drivers フォルダを作成します。
3. DriverPack.zip の内容を一時的な保存場所に解凍します。ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。
4. RIS_Image\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers フォルダの内容をコピーします。
 - QLogic Fibre Channel PCIe ExpressModule を使用している場合は、RIS_Image\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\qlogic フォルダの内容を RIS_Image\\$OEM\$\textmode フォルダにコピーします。
内容をコピーしたら、RIS_Image\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\qlogic フォルダを削除できます。
 - Emulex Fibre Channel PCIe ExpressModule を使用している場合は、RIS_Image\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\emulex フォルダの内容を RIS_Image\\$OEM\$\textmode フォルダにコピーします。
内容をコピーしたら、RIS_Image\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\emulex フォルダを削除できます。
 - Sun Blade RAID Expansion Module を使用している場合は、RIS_Image\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\adaptec フォルダの内容を RIS_Image\\$OEM\$\textmode フォルダにコピーします。
内容をコピーしたら、RIS_Image\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\adaptec フォルダを削除できます。
 - Sun Blade 0/1 RAID Expansion Module を使用している場合は、RIS_Image\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\lsi フォルダの内容を RIS_Image\\$OEM\$\textmode フォルダにコピーします。
内容をコピーしたら、RIS_Image\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\lsi フォルダを削除できます。

5. RIS イメージのアーキテクチャ (Arch) に基づき、手順 3 で作成した一時的な保存場所から、32 ビットフォルダまたは 64 ビットフォルダの内容を RIS イメージの \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers フォルダにコピーします。

i386 には 32 ビットフォルダ、amd64 には 64 ビットフォルダを使用します。

6. Microsoft TechNet の技術文書「Creating an Answer File with Setup Manager (セットアップマネージャを使用した応答ファイルの作成)」の方法に従って応答ファイルを作成します。

この文書を手入するには、次の場所を参照してください。

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/library/7842163>

7. インストールに使用する .sif ファイルに、次の変更を加えます。

表 7-2 Sun Blade X6450 サーバーモジュールの .sif ファイルの変更

32 ビット	64 ビット
[Unattended]	[Unattended]
OemPreinstall = yes	OemPreinstall = yes
<p>注 - 読みやすいように、OemPnpDriversPath 情報は複数行に分けて表示されますが、1 行で入力してください。</p>	
OemPnpDriversPath= \Sun\Drivers\ intel\chipset; \Sun\Drivers\intel\nic; \Sun\Drivers\infineon; \Sun\Drivers\qlogic; \Sun\Drivers\emulex; \Sun\drivers\adapttec; \Sun\drivers\lsi; \Sun\Drivers\ast	OemPnpDriversPath= \Sun\Drivers\intel\ chipset; \Sun\Drivers\intel\nic; \Sun\Drivers\infineon; \Sun\Drivers\qlogic; \Sun\Drivers\emulex; \Sun\drivers\adapttec; \Sun\drivers\lsi; \Sun\Drivers\ast
<p>注 - QLogic、Emulex、Adaptec、LSI ドライバの場合、対応するデバイスがシステムに装着されている場合のみ、これらの行を追加します。</p>	

8. すべてのファイルを \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\intel\nic\RIS フォルダから RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダにコピーします。

9. RIS サーバーでリモートインストールサービス (BINLSVC) を停止してから、開始します。これを行うには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、各コマンドの後に Enter キーを押します。

```
> net stop binlsvc
> net start binlsvc
```


索引

J

- JavaRConsole
 - システムの設定 25
 - システムの要件 26
 - セットアップ手順 26
- JavaRConsole システムの設定 25

S

- SIA 3, 13
- Sun Blade X6450 ドライバ 39
- Sun Installation Assistant
 - 概要 11
 - 説明 9
 - 特長と利点 10
- Sun Installation Assistant (SIA) を使用したオペレーティングシステムのインストール 9
- Sun Installation Assistant (SIA) 3, 13

U

- USB デバイスへの接続 6

W

- Web GUI
 - リモートコンソールの起動 26
- Windows インストールの準備 1

あ

- オペレーティングシステムのインストール
 - 概要 1
 - 大容量記憶装置コントローラドライバの取得 13
 - 手順 32
 - 要件 31

か

- 起動、リモートコンソール 26
- コンパクトフラッシュ、OS のインストール 10

さ

- サポートされている Windows のバージョン 7
- システム固有ドライバ
 - アップデート 40
- シリアルコネクタ 6
- ストレージメディア
 - リモート 28

た

- 大容量記憶装置コントローラドライバ
 - 取得の準備 13
 - フロッピーディスクの作成 13
 - Linux または Solaris の使用 22
 - Windows の使用 14
- 手順、オペレーティングシステムのインストール 32
- ドキュメントに関するフィードバック vi

ドライバ 39
システム固有ドライバのアップデート 40
大容量記憶装置コントローラドライバ
取得の準備 13
ドライバ、Sun Blade X6450 システム用 39

は

パラレルコネクタ 6
表記上の規則 vi
フロッピーディスクの作成 14
フロッピーディスクの作成、大容量記憶装置コント
ローラドライバ 13

や

要件、オペレーティングシステムのインス
トール 31

ら

リモートインストールサービス (RIS)、必要な
ドライバ 47
リモートコンソール
開始 26
問題 27
リモートストレージデバイス 28